

JSW

第91期中間報告書

2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日

CONTENTS

株主の皆様へ …… 1	TOPICS …… 7
事業別の概況 …… 3	会社概要 …… 9
連結財務諸表 …… 5	株主メモ ……裏表紙



株式
会社

日本製鋼所

証券コード：5631

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第91期中間報告書
(2016年4月1日~2016年9月30日)を
お届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

佐藤育男



当中間期の業績

当中間期における海外経済は、中国では過剰債務・過剰生産能力の問題が重石となり景気が緩やかに減速する一方、英国のEU離脱問題の影響が限定的であったことから、欧米先進国経済は引き続き堅調に推移し、全体としては緩やかな景気回復が続きました。わが国経済も、雇用・所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調で推移しましたが、中国経済の減速や円高による輸出企業の業績への影響など、先行きに対しては不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、昨年5月に策定した2017年度までの3か年の中期経営計画

(JGP2017) に沿って、顧客のバリューチェーンの要衝においてトップシェアを目指す「グローバル&ニッチトップ企業グループへの飛躍」を目標に、①現有事業の収益力拡大、②新製品・新規事業の育成・早期戦力化、③グループ経営の強化とアライアンスの推進を基本方針とした事業活動を推進しております。

当社グループにおける当中間期の業績につきましては、受注高は、素形材・エネルギー事業、産業機械事業とも前年同期並みの実績を確保し、960億91百万円（前年同期比0.2%減）となりました。売上高は、素形材・エネルギー事業が減少したものの、産業機械事業が伸長したことにより、1,070億39百万円（前年同期比13.1%増）となりました。損益面では、営業利益は73億46百万円

(前年同期比46.5%増)、経常利益は73億68百万円(前年同期比38.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は51億10百万円(前年同期比61.4%増)となりました。

期初予想との差異及び通期業績見通し

当中間期の業績につきましては、素形材・エネルギー事業の売上高は当初予想を下回った一方、樹脂製造・加工機械の需要拡大などにより産業機械事業の売上高が当初予想を上回ったことに加え、コスト改善により、全体として営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が増加いたしました。

通期の業績予想につきましては、期初の予想を据え置き、売上高は2,200億円、営業利益は120億円、経常利益は120億円、親会社株主に帰属する当期純利益は80億円を見込んでおります。

期初の発表通り、中間配当2.5円を実施

当社は、株主の皆様への安定的かつ継続的な配当の実施とその向上を基本姿勢としております。

また、企業価値及び株主価値の向上のため、現有事業の安定的な収益力の確保と新事業・新製品伸長に向けた設備投資、研究開発投資を進めるほか、財務体質の改善にも努めてまいります。

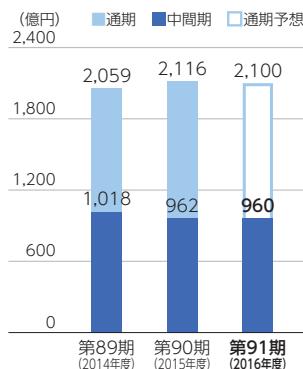
当中間期の配当につきましては、上記方針に基づき、中間決算及び通期業績見通しを勘案し、1株につき2.5円(※)とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

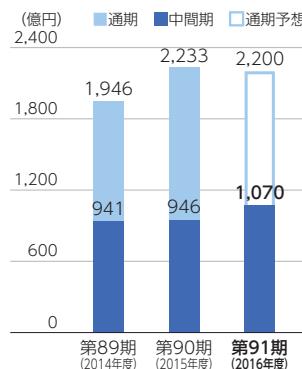
2016年12月

※ 当社は、2016年10月1日を効力発生日として、普通株式5株を1株とする株式併合を実施しておりますが、当中間期の配当は、株式併合前の株式数に対してお支払いいたします。

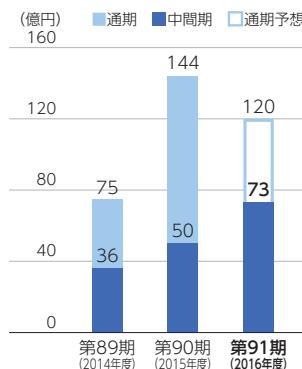
受注高の推移



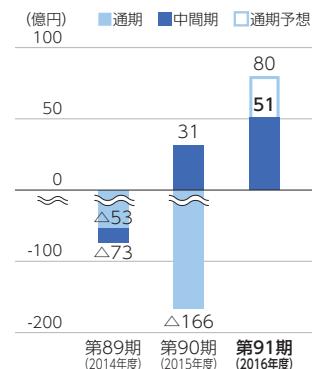
売上高の推移



営業利益の推移



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益の推移



詳細は、P5-6をご覧ください

事業別の概況

素形材・エネルギー事業

受注高 **183**億円
前年同期比 **3億円増、1.8%増**

売上高 **234**億円
前年同期比 **78億円減、25.0%減**

営業損失 **16**億円
前年同期比 **12億円悪化**

売上高比率
21.9%

受注高は、クラッド鋼管が増加したものの、前年同期並みの183億67百万円(前年同期比1.8%増)にとどまりました。

売上高は、電力・原子力製品及び風力発電機器が増加したものの、クラッド鋼管が減少したことから、234億84百万円(前年同期比25.0%減)となりました。

営業損益は、減損による固定費の減少はあるものの、クラッド鋼管などの売上高の減少が影響して損失幅が拡大し、営業損失16億99百万円(前年同期は営業損失4億86百万円)となりました。

産業機械事業

受注高 **767**億円
前年同期比 **3億円減、0.4%減**

売上高 **825**億円
前年同期比 **203億円増、32.8%増**

営業利益 **89**億円
前年同期比 **35億円増、66.7%増**

売上高比率
77.1%

受注高は、成形機が減少したものの、レーザーアニール装置が増加したことから、前年同期並みの767億42百万円(前年同期比0.4%減)となりました。

売上高は、樹脂製造・加工機械及びレーザーアニール装置が増加したことから、825億72百万円(前年同期比32.8%増)となりました。

営業利益は、売上高の増加及びコスト改善を主因として、89億70百万円(前年同期比66.7%増)となりました。

不動産その他事業は、受注高9億円、売上高9億円、営業利益5億円となりました。

主要な事業内容

電力・原子力製品

発電用品、原子力関連機材等の製造・販売

石油精製用圧力容器

石油精製・石油化学・一般化学用品、
化学機械用品等の製造・販売

クラッド鋼板・鋼管

クラッド鋼板、クラッド鋼管、その他極厚鋼板等の製造・販売

風力発電機器

風力発電機器の製造・販売・保守

その他

鉄鋼用品、金型材等の製造・販売

● 主要な工場

室蘭製作所 (北海道室蘭市)

主要な事業内容

樹脂製造・加工機械

樹脂製造・加工機械 (造粒機、コンパウンド用押出機、フィルム・シート製造装置等) の製造・販売

成形機

プラスチック射出成形機、中空成形機の製造・販売

その他

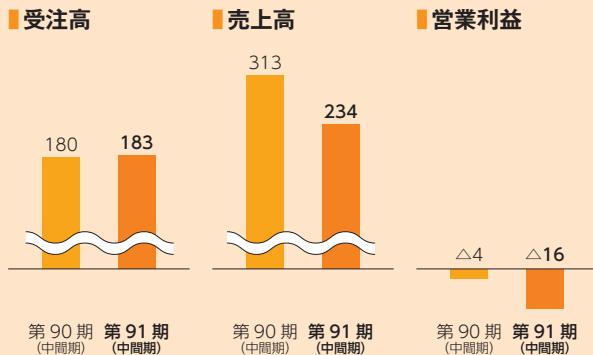
圧縮機、油圧機器、電子部品・ディスプレイ製造関連機器 (レーザーアニール装置・薄膜成膜装置等)、マグネシウム合金射出成形機、各種連結器・緩衝器、防衛関連機器等の製造・販売・修理

● 主要な工場

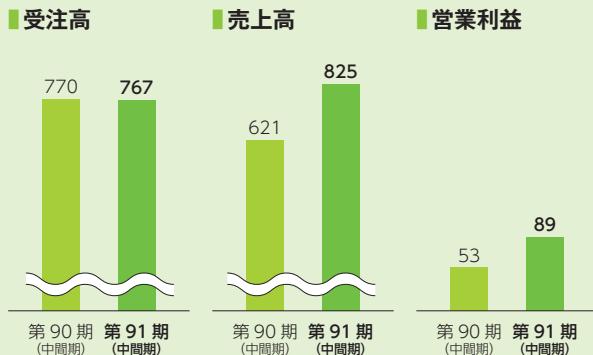
広島製作所 (広島県広島市安芸区)

横浜製作所 (神奈川県横浜市金沢区)

(単位：億円)



(単位：億円)



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前期 2016年3月31日現在	当中間期 2016年9月30日現在
POINT ① 資産の部		
流動資産	195,574	192,558
固定資産	97,563	97,738
有形固定資産	48,715	49,938
無形固定資産	1,676	1,554
投資その他の資産	47,171	46,244
資産合計	293,138	290,297
POINT ② 負債の部		
流動負債	118,475	114,434
固定負債	63,322	61,379
負債合計	181,797	175,813
POINT ③ 純資産の部		
株主資本	107,413	111,603
資本金	19,694	19,694
資本剰余金	5,467	5,467
利益剰余金	84,554	88,746
自己株式	△2,302	△2,304
その他の包括利益累計額	2,609	1,563
その他有価証券評価差額金	3,830	3,118
繰延ヘッジ損益	337	348
為替換算調整勘定	51	△649
退職給付に係る調整累計額	△1,609	△1,253
非支配株主持分	1,318	1,316
純資産合計	111,340	114,483
負債純資産合計	293,138	290,297

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前中間期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	当中間期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで
売上高	94,667	107,039
売上原価	75,813	85,210
売上総利益	18,854	21,828
販売費及び一般管理費	13,841	14,482
POINT ④ 営業利益	5,012	7,346
営業外収益	822	642
営業外費用	514	620
経常利益	5,321	7,368
特別利益	29	11
特別損失	200	73
税金等調整前四半期純利益	5,150	7,306
法人税、住民税及び事業税	1,378	1,718
法人税等調整額	513	393
非支配株主に帰属する四半期純利益	93	84
POINT ⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益	3,165	5,110

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前中間期 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	当中間期 2016年4月1日から 2016年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,645	8,194
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,771	△9,182
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,071	△483
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△319
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	17,943	△1,790
現金及び現金同等物の期首残高	49,152	61,458
現金及び現金同等物の四半期末残高	67,096	59,668

POINT!

ポイント解説

POINT① 資産の部

資産合計は、前期末比28億41百万円減少し、2,902億97百万円となりました。これは主に、現金及び預金や売掛金などの流動資産が減少したためであります。

POINT② 負債の部

負債合計は、前期末比59億83百万円減少し、1,758億13百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金などの流動負債が減少したためであります。

POINT③ 純資産の部

純資産合計は、前期末比31億42百万円増加し、1,144億83百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したためであります。自己資本比率は39.0%（前期末は37.5%）となりました。

POINT④・⑤ 営業利益／親会社株主に帰属する四半期純利益

産業機械事業における売上高の増加及びコスト改善を主因として、営業利益は、前年同期比23億33百万円増加し73億46百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比19億44百万円増加し51億10百万円となりました。



詳細はWEBサイトをご参照ください。

当社は、半期毎の報告書の他、IR説明会資料やアニュアルレポート等をホームページに掲載し、株主の皆様を始め投資家の皆様への情報提供に努めております。

各種IRツールは、下記URL（当社ホームページ／株主・投資家情報ページ）にてご覧いただけます。

<http://www.jsw.co.jp/ir/>

日本製鋼所 IR

検索

TOPICS

K-2016—国際プラスチック・ゴム産業展 (K Messe) に出展

当社は2016年10月19日より26日までドイツ・デュッセルドルフで開催されたK-2016—国際プラスチック・ゴム産業展 (K Messe) に出展いたしました。

K Messeには世界60カ国・約3,200社 (日本企業は約60社) が出展、当社からは、「J-ADS」シリーズとして中型機に続き販売を開始した小型電動射出成形機をはじめ、金属樹脂一体化技術システムやハイスパックな小型二軸混練押出機「TEX25αIII」を展示し、総合樹脂機械メーカーとしての技術力をアピールいたしました。

当社は、樹脂製造・加工および成形における技術力にさらに磨きをかけ、時代に即した産業機械を今後もグローバルに提供してまいります。



2016年10月に販売を開始したJ-ADS機 (写真はJ100ADS)



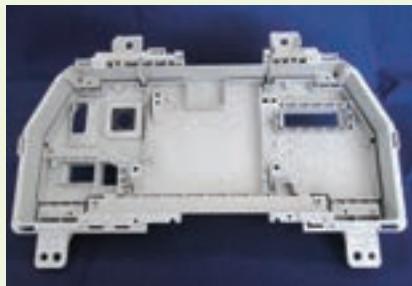
2015年12月に販売を開始したマグネシウム射出成形機 (写真は850MGIe)

マグネシウム射出成形機の自動車分野への適用が拡大

マグネシウム (Mg) は、その比重が鉄の約4分の1、アルミニウムの3分の2で、かつ強度・放熱性・振動吸収性等の特徴を兼ね備えた軽量化材料であり、近時自動車部品への適用が進んでいます。

当社は、プラスチック成形機と同様、スクリュー・シリンダ内部でMg合金を加熱溶融し金型内部へ射出する環境に優しい工法 (チクソモールド成形法) によるマグネシウム射出成形機を商品化しています。

昨年12月に販売を開始した新機種は、従来よりも大型の部品の生産が可能で、自動車のメーターパネルやECU (エレクトロニック・コントロール・ユニット) ケース、シートフレーム等の成形に活用されることが期待されています。



成形品例 (写真は自動車用メーターケース)

有機ELパネル製造プロセス装置の開発を推進

当社主力製品の一つであるレーザーアニール装置は、スマートフォン・タブレット向けの高精細な液晶(LCD)パネルや有機EL(OLED)パネルを製造する際の上流工程である、低温ポリシリコン(LTPS)層の形成に不可欠な製品であり、国内100%、世界でも70%以上のシェアを有しています。

昨年来、有機ELパネルの量産化を目指した設備投資が、日本・韓国・中国を中心に活発化してきており、有機ELパネル製造用途での当社レーザーアニール装置の需要が伸長してきています。

また、有機ELパネルは、液晶パネルと異なり、ガラス基板を外すことでしなやかに曲がるフレキシブルディスプレイを可能にします。フレキシブルディスプレイの製造工程においては、①有機ELの表面への薄膜封止膜形成、②有機EL層とガラス基板の分離が必要となりますが、当社はこれらの工程で使用される高性能薄膜成膜装置(CVD/ALD装置)やレーザー剥離装置の開発を進めています。

今後さらに伸長が期待される有機ELパネルの製造工程の要衝において、独自の技術で最適なソリューションを提供してまいります。



高性能薄膜成膜装置(CVD/ALD装置)



レーザー剥離装置

有機ELパネルの製造工程



広島製作所で新工場が完成

昨年より進めておりました広島製作所の第3組立工場が完成し、2016年7月に稼動いたしました。

当該工場では、主に造粒機、大型二軸混練押出機(TEX)、圧縮機の組立が行われます。また、既設の第1組立工場は、射出成形機の専用工場に生まれ変わりました。

広島製作所での今回の一連の工場再配置によって、フィルム・シート装置の生産ラインも再整備し、生産能力は、フィルム・シート装置では2倍に、射出成形機では1.3倍に増強されました。

増加する受注に迅速・的確に対応していくため、引き続き生産効率の向上に努めてまいります。



完成した広島製作所新工場

会社概要

会社の概要 (2016年9月30日現在)

創 業	1907(明治40)年11月1日
設 立	1950(昭和25)年12月11日
資 本 金	196億9,423万561円
従 業 員 数 (就業人員数)	単体: 2,323名 連結: 5,320名

取締役及び監査役 (2016年9月30日現在)

代表取締役社長	佐藤 育男
代表取締役副社長	田中 義友
取締役常務執行役員	渡邊 健二
取締役常務執行役員	東泉 豊
取締役常務執行役員	宮内 直孝
取締役常務執行役員	柴田 尚
取締役(社外)	佐藤 元信
取締役(社外)	持田農夫男
常勤監査役	水谷 豊
常勤監査役	門田 彰
監査役(社外)	城野 和也
監査役(社外)	増田 格

執行役員(取締役兼務者を除く) (2016年9月30日現在)

専務執行役員	北村 和夫	執行役員	村上 博司
専務執行役員	石橋 義尚	執行役員	香川 豊彦
常務執行役員	藤村 浩	執行役員	出口淳一郎
上席執行役員	清水 誠	執行役員	松尾 敏夫
上席執行役員	折田 勝利	執行役員	菊川 健治
執行役員	大下 真雄	執行役員	岩本 隆志

(注) 当社は、取締役 佐藤元信氏及び持田農夫男氏並びに監査役 城野和也氏及び増田格氏を東京証券取引所及び名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。

株式の状況 (2016年9月30日現在)

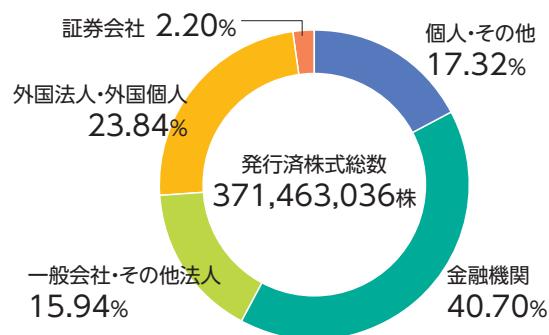
発行可能株式総数	1,000,000,000株
(2016年10月1日付株式併合後)	200,000,000株
発行済株式総数	371,463,036株
(2016年10月1日付株式併合後)	74,292,607株
株主数	25,115名

大株主 (2016年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,993	7.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	27,811	7.57
三井生命保険株式会社	14,138	3.85
株式会社三井住友銀行	12,550	3.42
三井住友海上火災保険株式会社	8,824	2.40
三井住友信託銀行株式会社	8,152	2.22
新日鐵住金株式会社	6,530	1.78
ピービーエイチ ザアドバイザーズ インナーサークル ファンド	6,131	1.67
ツーコベルニク グロ オールキャップ ファンド	5,755	1.57
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー	5,755	1.57
ジユニパー	5,417	1.47

(注) 持株比率は、発行済株式総数から自己株式(3,999,385株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況 (2016年9月30日現在)





ネットワーク (2016年9月30日現在)

● 本社

東京都品川区大崎一丁目11番1号
TEL. (03)5745-2001 (大代表)
FAX. (03)5745-2025

● 支店・営業所

名古屋支店 (名古屋市中区)
関西支店 (大阪市西区)
中国支店 (広島市安芸区)
九州支店 (春日市)
東北営業所 (仙台市宮城野区)
関東営業所 (さいたま市緑区)
関西営業所 (吹田市)
府中出張所 (府中市)
浜松出張所 (浜松市中区)

● 研究所

室蘭研究所 (室蘭市)
広島研究所 (広島市安芸区)
横浜研究所 (横浜市金沢区)

● 工場

室蘭製作所 (室蘭市)
広島製作所 (広島市安芸区)
横浜製作所 (横浜市金沢区)

● 主な国内子会社

JSW ITサービス株式会社
JSWアフティ株式会社
ファインクリスタル株式会社
株式会社タハラ
株式会社ニップラ
エムジープレジジョン株式会社
日鋼YPK商事株式会社
株式会社名機製作所
日鋼特機株式会社

● 海外拠点

アメリカ	Japan Steel Works America, Inc. JSW Plastics Machinery, Inc.
インド	JAPAN STEEL WORKS INDIA PRIVATE LIMITED
インドネシア	PT. JSW Plastics Machinery Indonesia
韓国	JSW IT KOREA CO., LTD. SM PLATEK CO., LTD.
シンガポール	THE JAPAN STEEL WORKS (SINGAPORE) PTE. LTD.
タイ	The Japan Steel Works (Thailand) Co., Ltd.
台湾	JSW Plastics Machinery (TAIWAN) Corp.
中国	Fine Crystal (H.K.) Co., Ltd. Fine Crystal Precision (S.Z.) Co., Ltd. JSW Machinery Trading (Shanghai) Co., Ltd. JSW Plastics Machinery (H.K.) Co., Ltd. JSW Injection Machine Maintenance (Shenzhen) Co., Ltd. NINGBO TONGYONG PLASTIC MACHINERY MANUFACTURING CO., LTD. JSW Machinery (Ningbo) Co., Ltd. Y P K TRADING (HONG KONG) CO., LTD. Y P K Machine Trading (Shenzhen) Co., Ltd.
ドイツ	Japan Steel Works Europe GmbH
フィリピン	JSW Plastics Machinery (Philippines) Inc.
ベトナム	JSW Plastics Machinery Vietnam Ltd.
マレーシア	JSW Plastics Machinery (M) SDN. BHD.

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告掲載方法	電子公告 但し、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合 は、日本経済新聞に掲載して行う。
単元株式数	100株(2016年10月1日付で1,000株から変更)
上場証券取引所	東京(1部)、名古屋(1部)

株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

配当金のお受取り方法について

配当金を配当金領収証でお受取りの株主様には、確実に配当金をお受取りいただける口座振込のご利用をおすすめいたします。ご希望の株主様は、お取引の証券会社（特別口座に記録されている株主様は特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社）へ所定の用紙をご請求の上、お申込みください。

単元株式数の変更・株式併合に関するご案内

2016年10月1日付で、当社普通株式について、

1. 単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)
2. 株式併合(5株を1株に併合)

を実施いたしました。

詳細は、当社ホームページに掲載しております2016年5月16日付「単元株式数の変更、株式併合及び定款の一部変更に関するお知らせ」をご覧ください。

ホームページのご案内

当社の企業活動、製品などに関する詳しい情報につきましては、「株式会社日本製鋼所ホームページ」でご覧いただけます。こちらもどうぞご利用ください。

<http://www.jsw.co.jp/>



日本製鋼所

検索



この報告書は、環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。